

第16期(2014年3月期) 決算のご説明

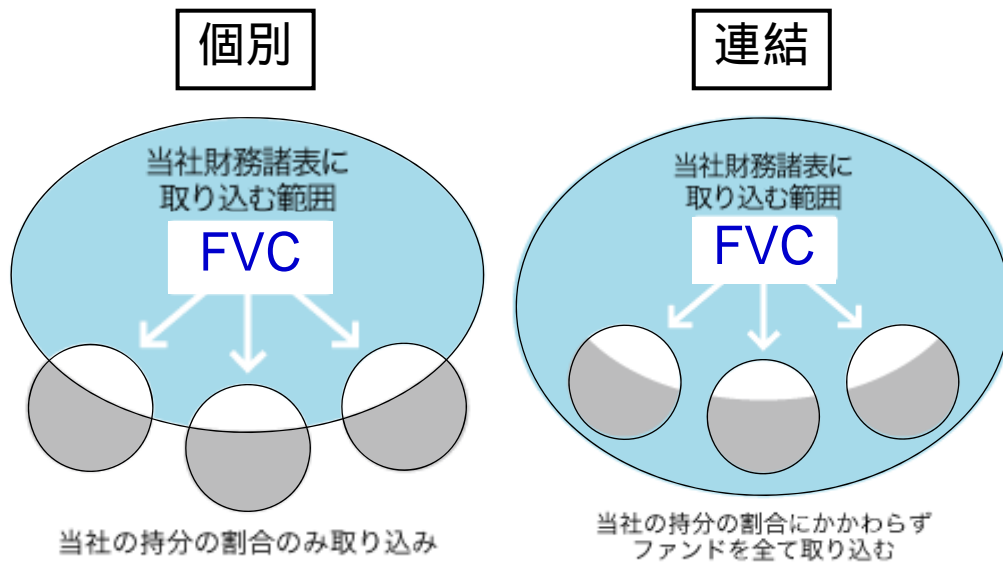
フューチャーベンチャーキャピタル株式会社
(JASDAQスタンダード, 証券コード8462)

本資料は情報の提供のみを目的としており、当社が発行する有価証券及び当社が管理運営するファンドへの投資勧誘を目的とするものではありません。また、本資料に掲載されている事項は資料作成時点において入手した情報に基づいたものですが、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありません。今後、予告なしに変更することがありますのでご了承ください。

本資料の数値は、特に指定がない限りすべて2014年3月末現在のものです。

本資料における記載数値について

当社の経営成績及び財務状態をよりの的確に表すため、本資料では、基本的に投資事業組合の当社持分のみを連結した個別決算数値を記載しております。



投資事業組合の運用総額に占める当社持分の割合24.2%

< 連結決算の場合 >

連結貸借対照表

- ・ 自己資本比率が低下

連結損益計算書

- ・ 営業投資有価証券にかかる損益が増幅
- ・ 投資事業組合等管理収入が内部取引とみなされ、相殺消去（管理報酬等）

目次

- 1. 株式市場環境 …… P.4
- 2. 2014年3月期決算説明 …… P.11
- 3. 収益改善に向けた取り組み …… P.25

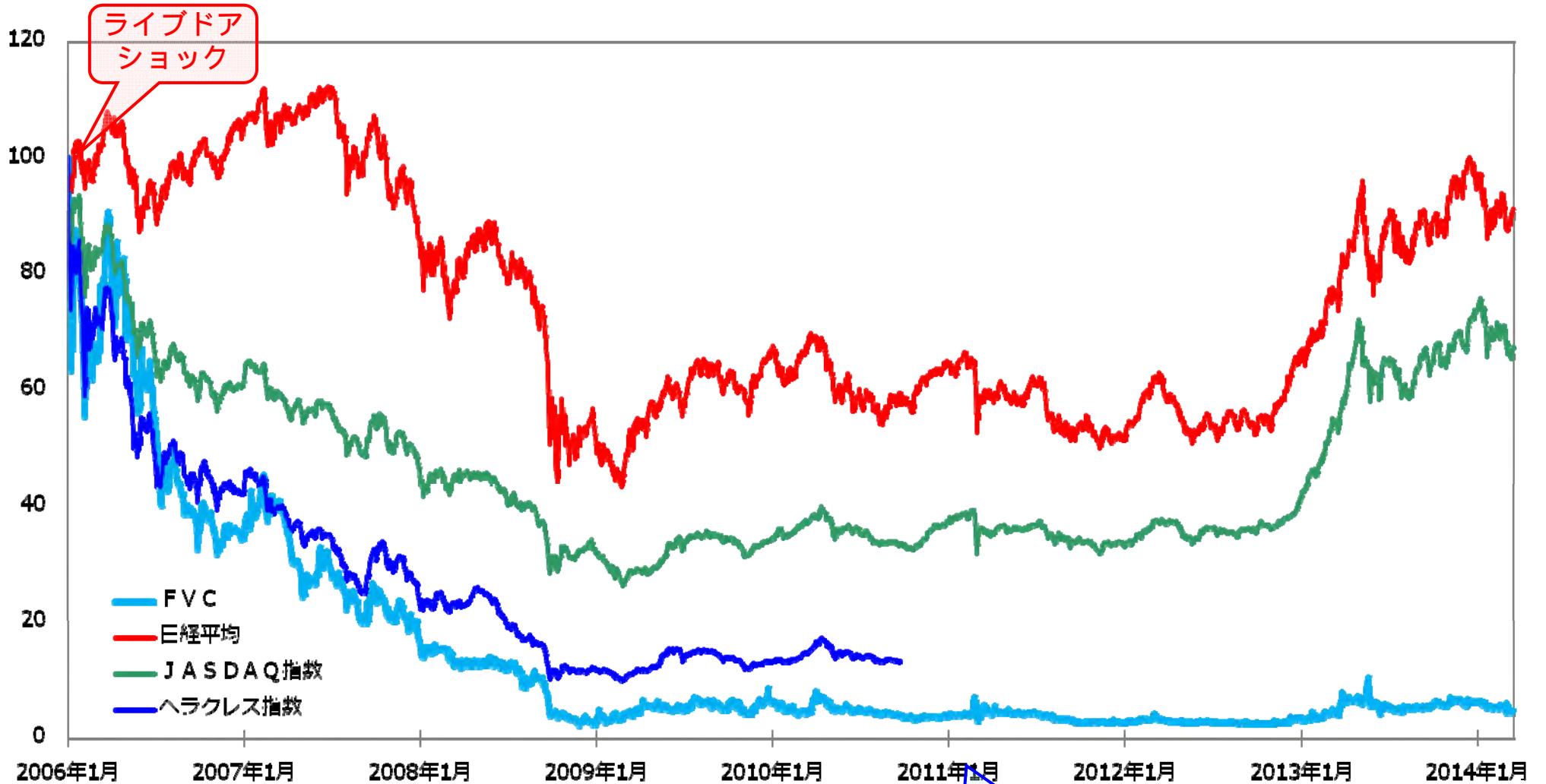
【参考】 会社概要

株式市場環境

1.1. 株式市場の状況(1)

ライブドアショックによる新興市場へのインパクトはいまなお大きい

2006年1月16日を100とする指数



日経平均史上最安値
(リーマンショック直後)

東北地方
太平洋沖地震

1.2. 株式市場の状況(2)

2010年以降の出遅れが響き、相場水準には一步及ばず

2008年10月28日を100とする指数



日経平均史上最安値
(リーマンショック直後)

東北地方
太平洋沖地震

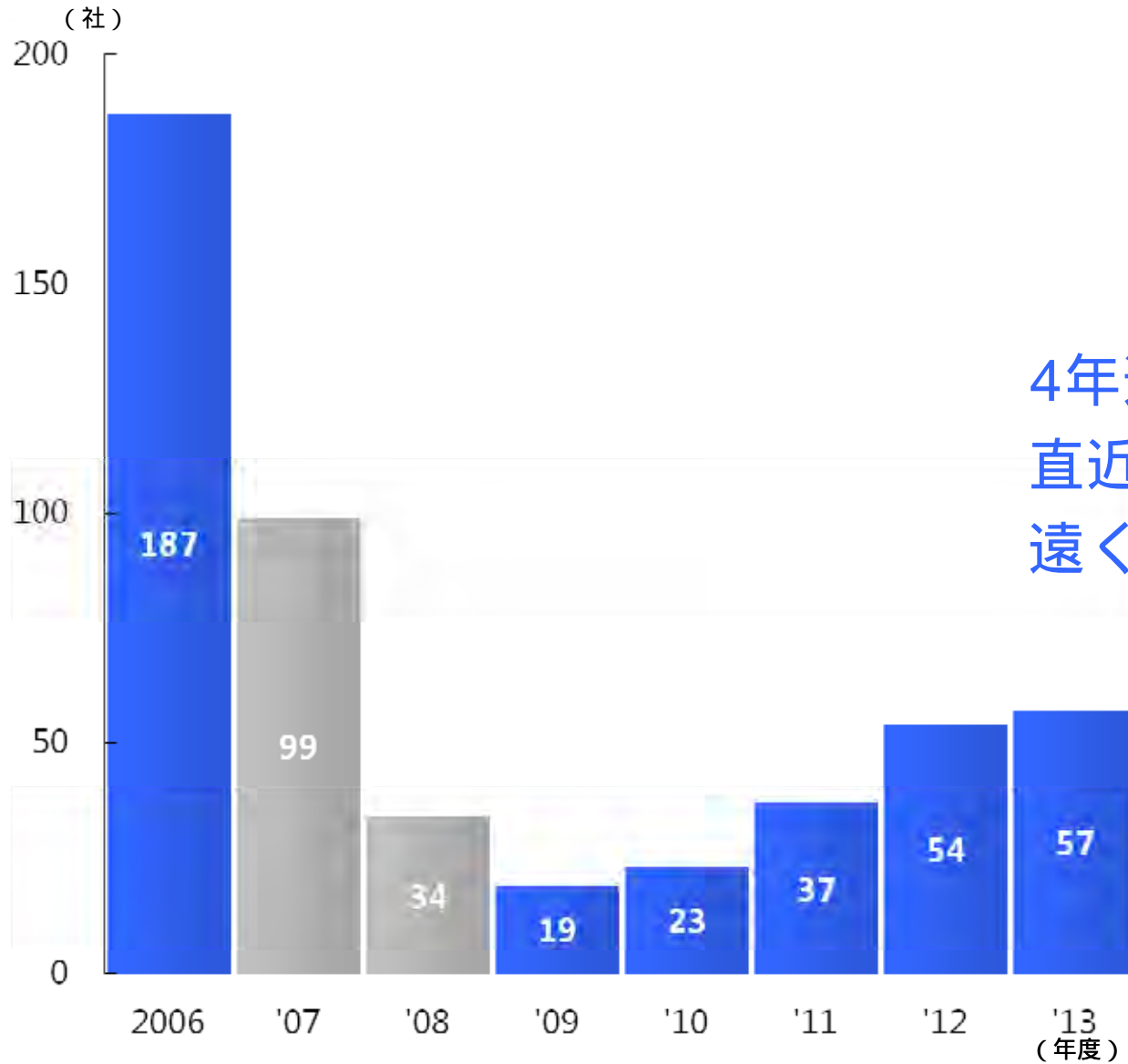
1.3. 株式市場の状況(3)

総じて相場に応じ、ボラティリティ高く推移

2013年3月31日を100とする指数



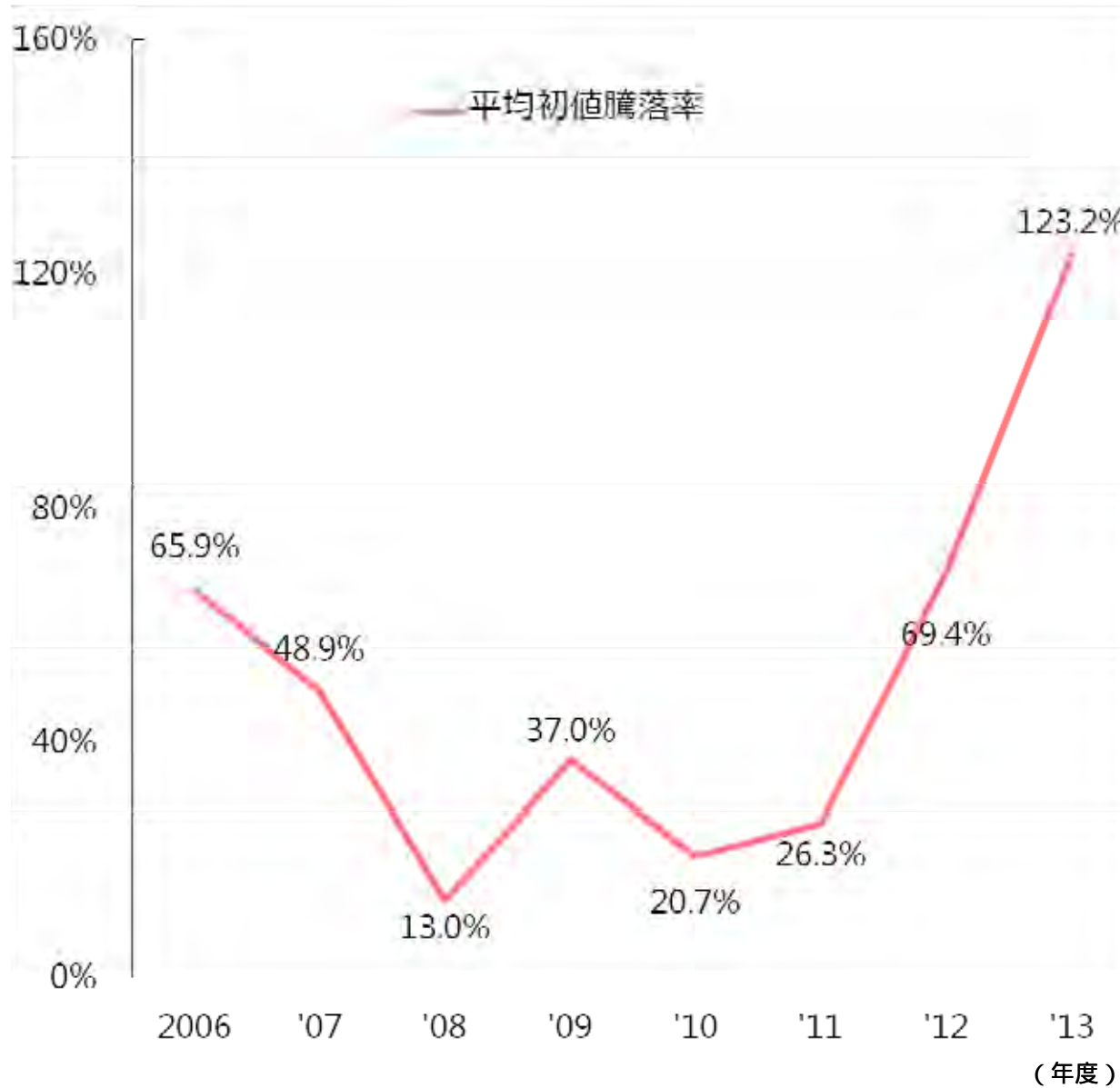
1.4. 新規上場市場の状況(1)



新規上場市場

4年連続前年度超えしたものの、直近ピークの2006年度には遠く及ばない水準

1.5. 新規上場市場の状況(2)



新規上場市場

初値は公募価格の2倍以上
の水準で推移

初値騰落率：
 $\{ (\text{初値} - \text{公募価格}) / \text{公募価格} \} \times 100 (\%)$

1.6. 新規上場市場の状況(3)



新規上場市場

3社を除いて初値が
公募価格を上回る

公募割れ比率：
新規上場企業のうち、初値が公募価格を下回った企業の比率

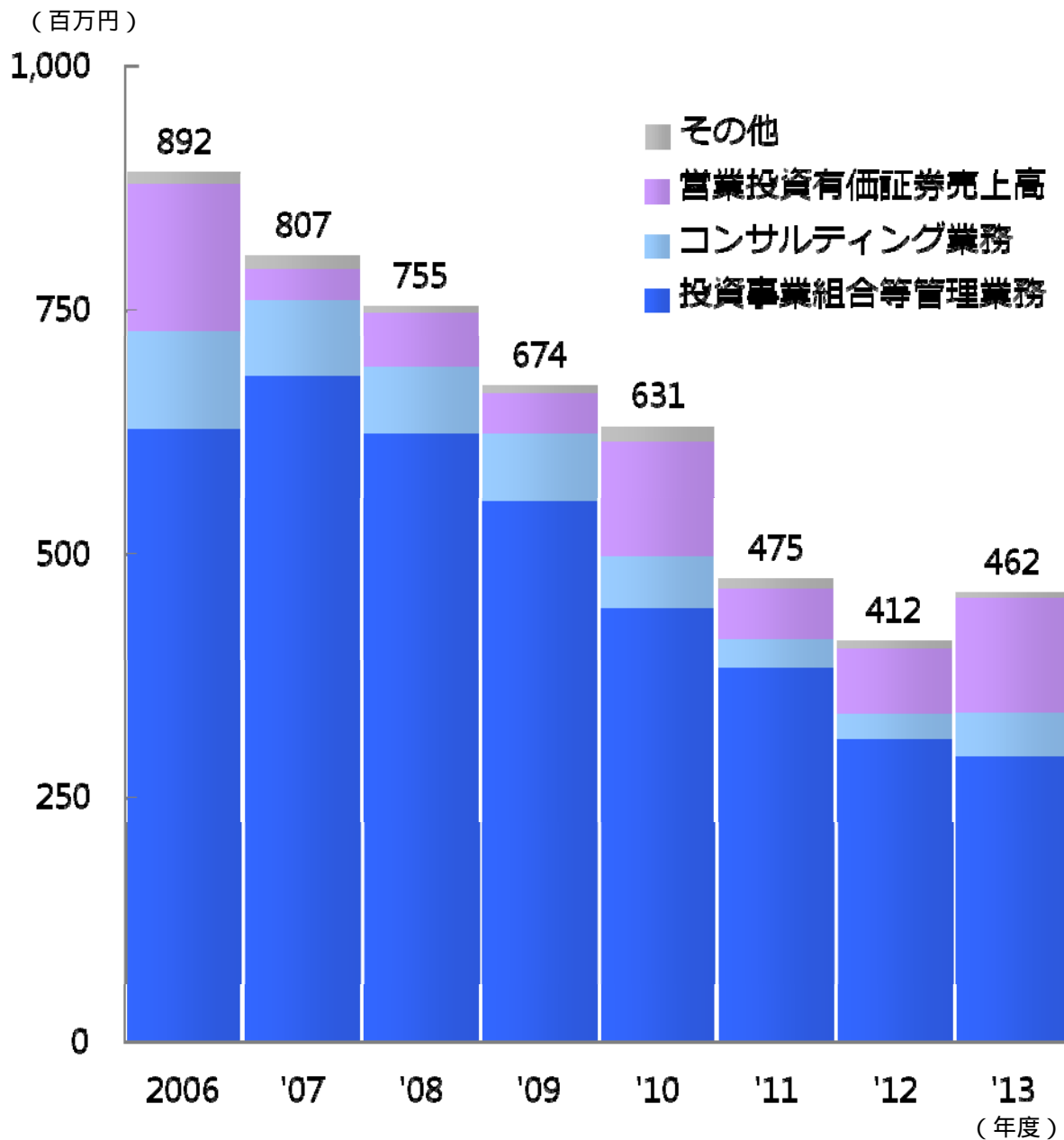
2014年3月期 決算説明

2.1. 決算概要

投資先の上場により売上高は増加したものの、キャピタルゲインを伴わなかったため
営業、経常損益は横ばい、前期のような特別要因なく、最終赤字

単位：百万円	第14期 2012年3月期	第15期 2013年3月期	第16期 2014年3月期	対前期比
売上高	475	412	462	+50
営業損益	194	52	60	8
経常損益	232	83	86	3
当期損益	84	43	94	137
純資産	316	359	196	163
総資産	1,446	1,458	1,154	304
自己資本比率	20.7%	23.5%	15.8%	7.7

2.2. 売上高推移

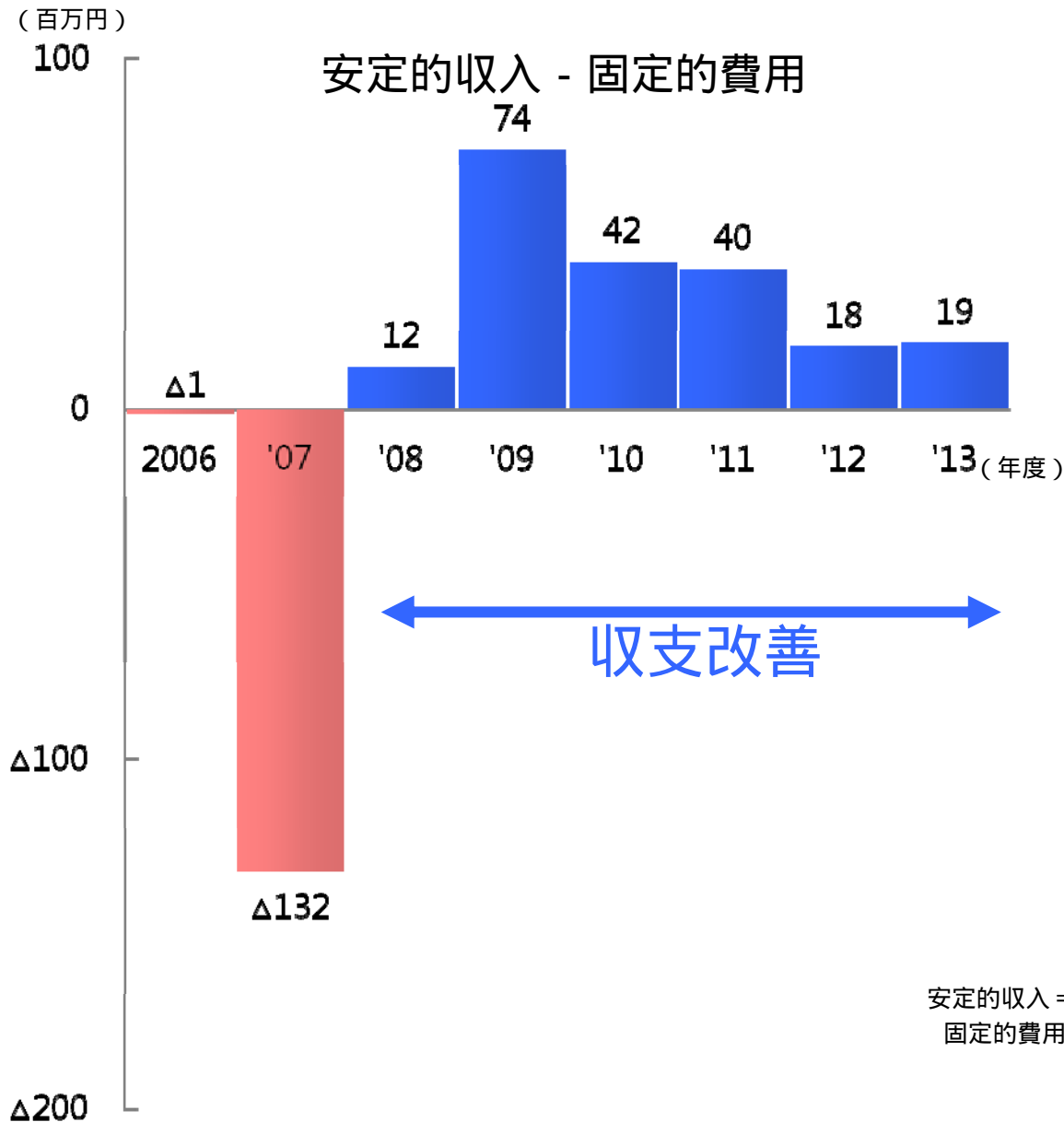


売上高

投資事業組合等管理業務収入の減少が続き、2006年度をピークに減少傾向

当期はコンサルティング業務の積み上げにより安定収入は前年並み、営業投資有価証券売上高の増加により全体では増収

2.3. 安定的収入と固定的費用のバランス



安定的収入と固定的費用

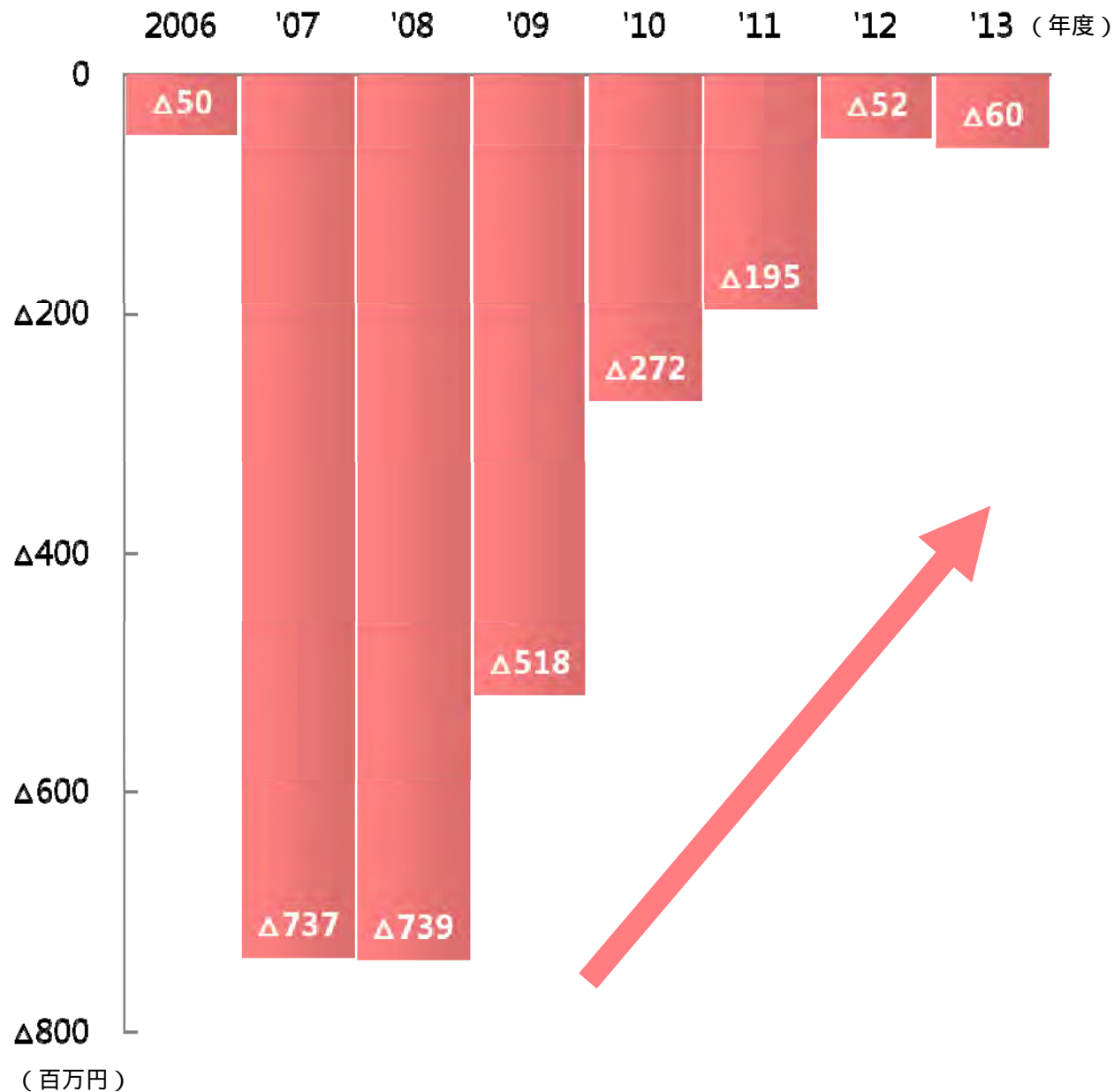
2007年度に安定的収入と固定的費用の
バランスが大きく悪化



経費削減を進め、2008年度以降は
収支改善

安定的収入 = 投資事業組合等管理収入 + コンサルティング収入
固定的費用 = 販売費および一般管理費 + 売上原価 (営業部門における活動経費)

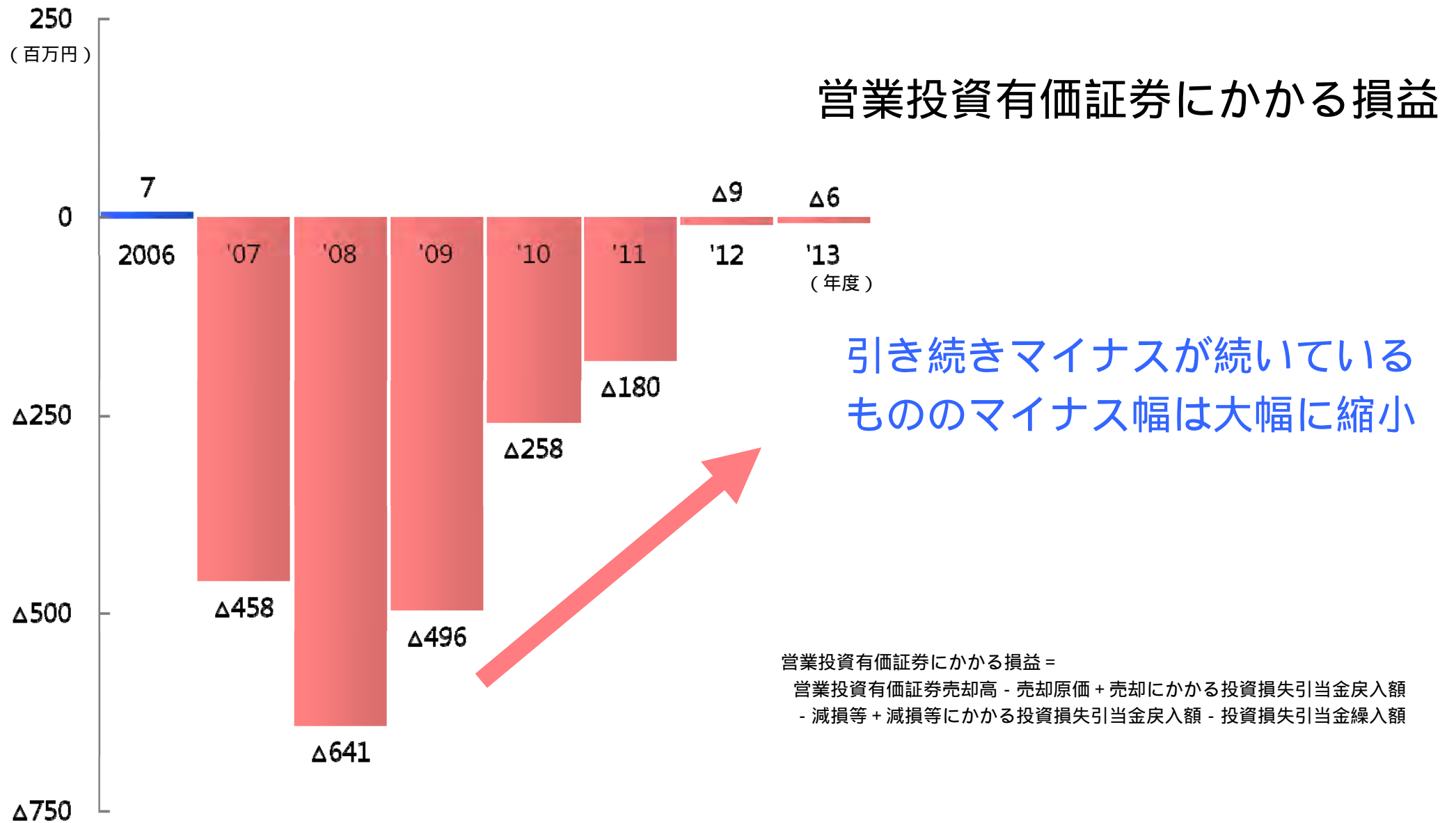
2.4. 営業損益推移



営業損益

2008年度をボトムに改善傾向
(2005年度は+53百万円)も、
ファンド持分譲り受けに伴う
組合費用増加が響き、赤字継続

2.5. 営業投資有価証券にかかる損益（合計）



2.6. 営業投資有価証券にかかる損益について

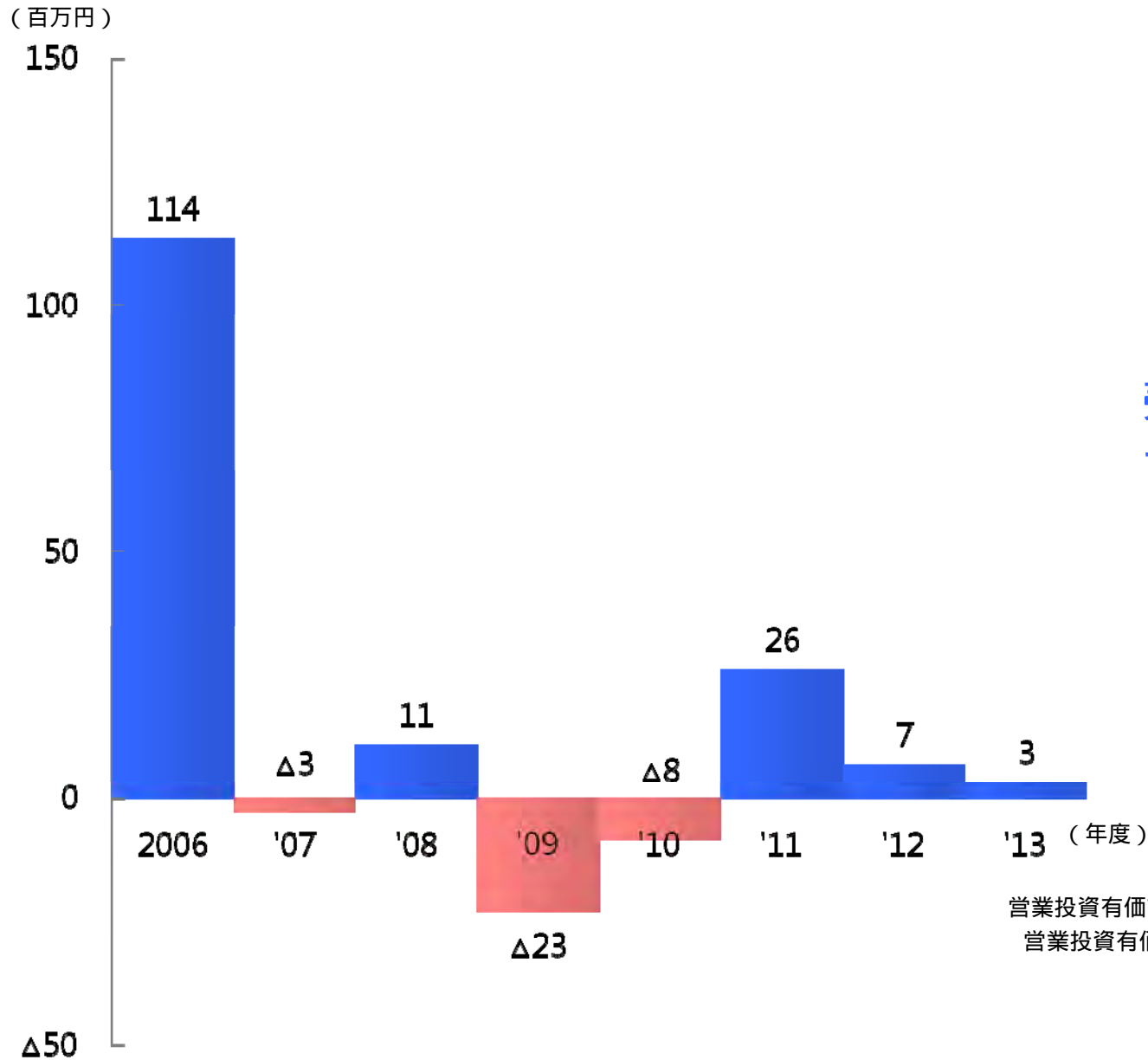
営業投資有価証券にかかる損益 =

売却にかかる損益 +

減損等・投資損失引当金繰入にかかる損益

本資料においては、端数処理(切捨て)の影響で合計額が一致しておりません。

2.7. 営業投資有価証券にかかる損益（売却）

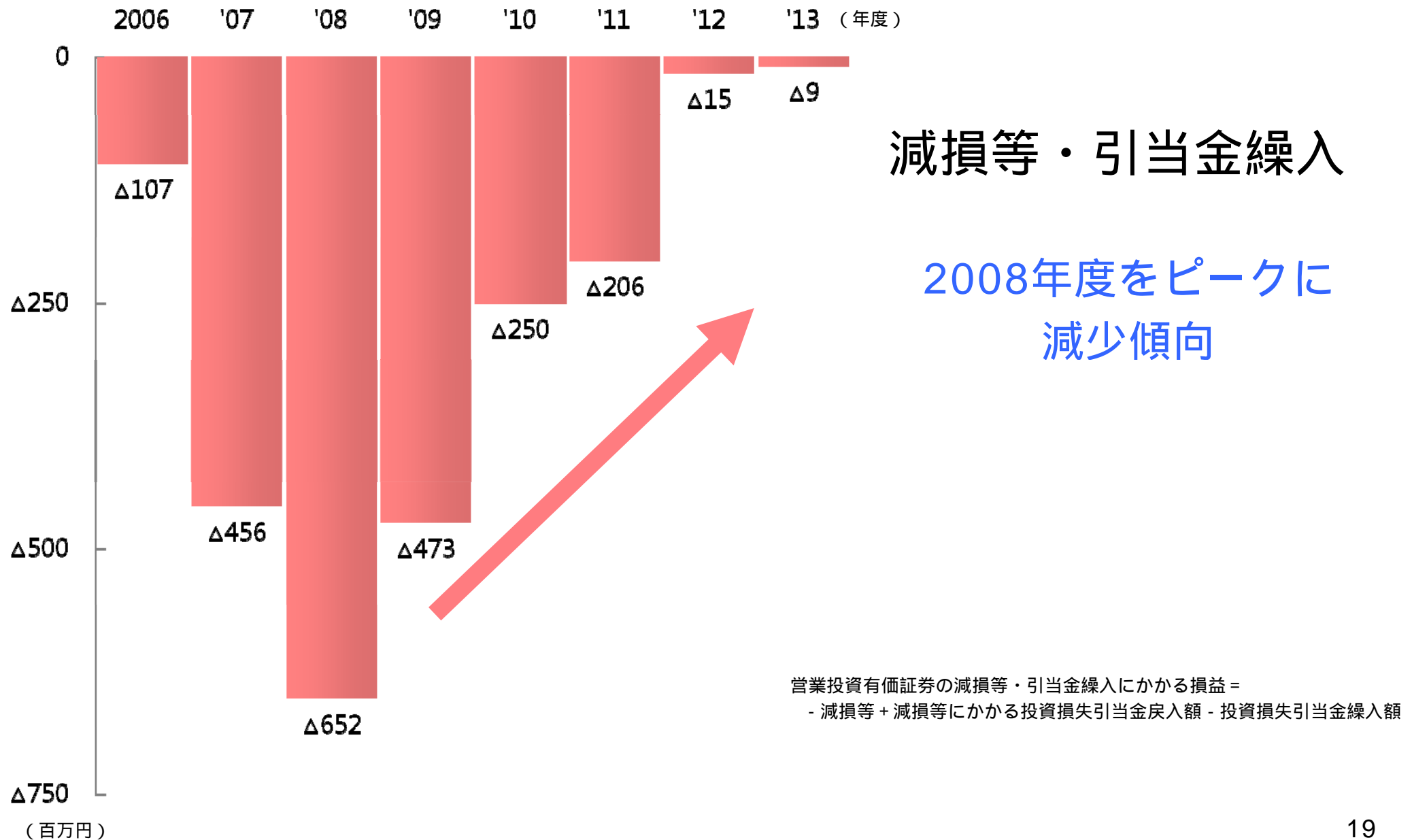


営業投資有価証券の 売却にかかる損益

売却にかかる損益はプラス
ではあるものの、低水準

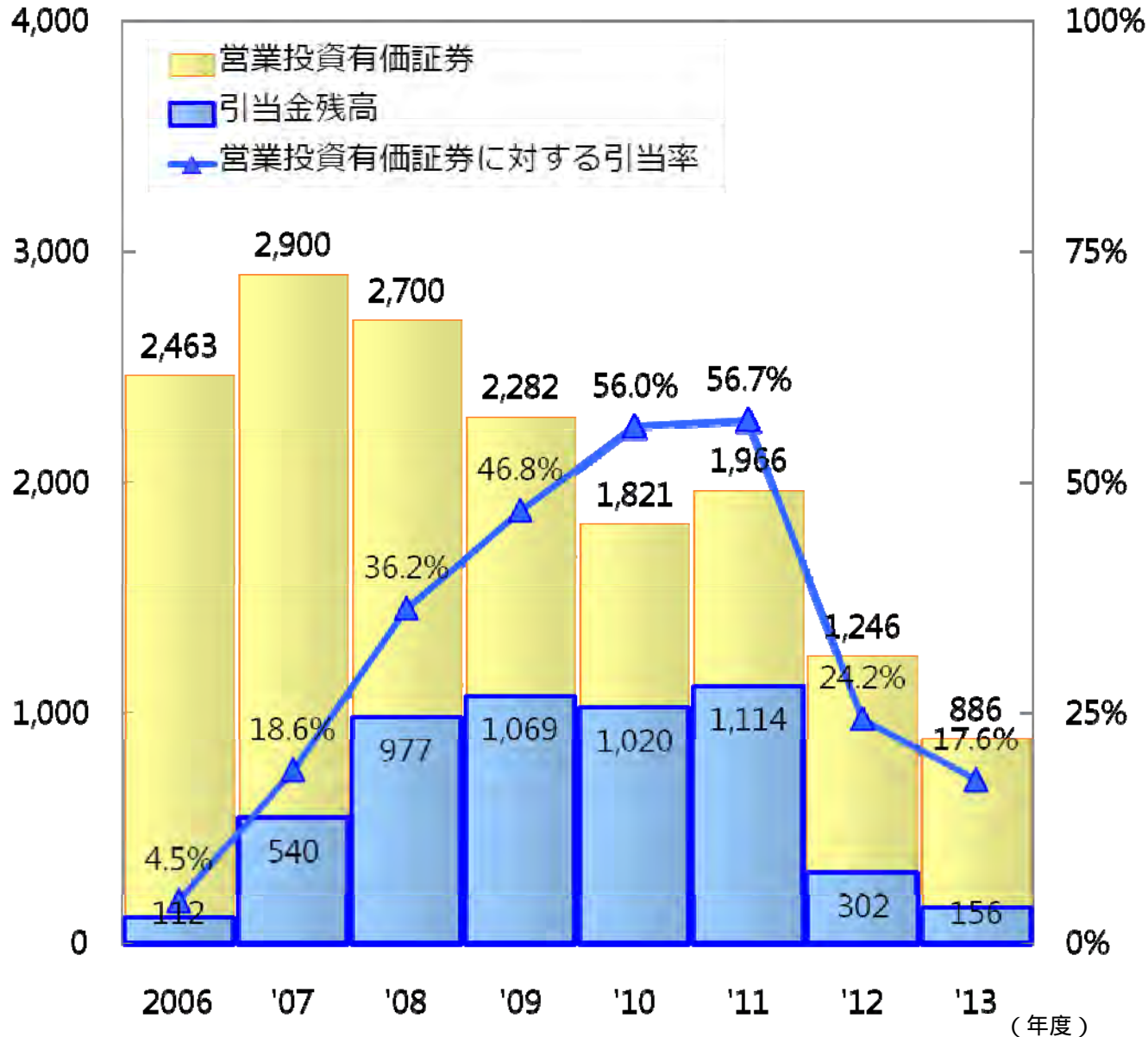
営業投資有価証券の売却にかかる損益 =
営業投資有価証券売却高 - 売却原価 + 売却にかかる投資損失引当金戻入額

2.8. 営業投資有価証券にかかる損益（減損等・引当金繰入）



2.9. 営業投資有価証券と投資損失引当金

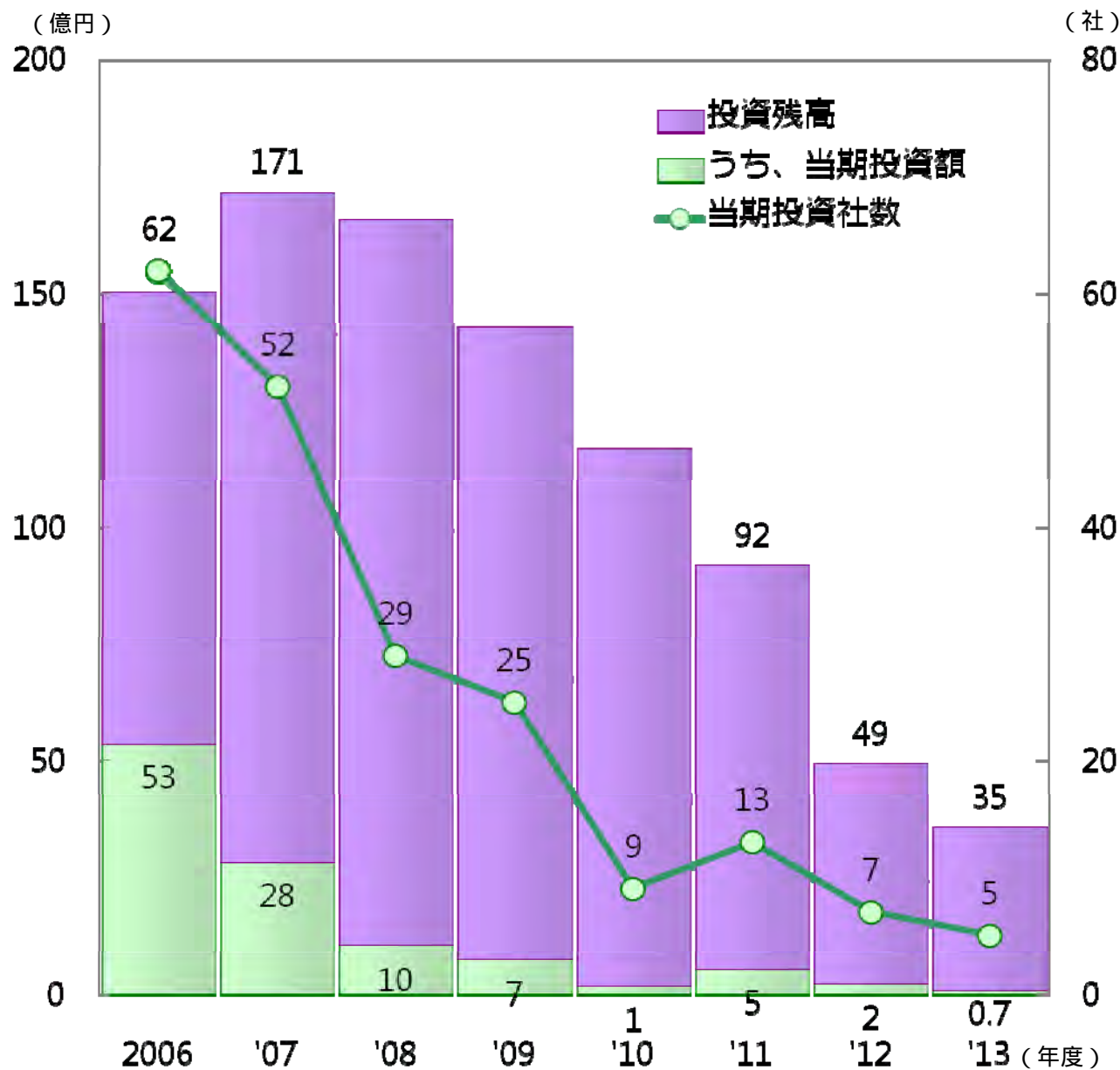
(百万円)



営業投資有価証券に対する引当率

旗艦ファンドの存続
期限が迫る中、
回復可能性評価(減損)
により引当率が減少

2.10. 投資活動



投資活動

売却活動の推進と
投資額の減少により、
2007年度をピークに
投資残高は減少が続く

連結対象の投資事業組合すべてを含んだ数値を記載

2.11. 上場企業紹介(1)

株式会社ジェイエスエス

上場日 : 2013年6月27日
上場市場 : JASDAQスタンダード
本社所在地 : 大阪府大阪市

事業概要 : スイミングスクールの運営、指導業務の受託及び水着等の販売

投資時点
株価

1,000円

上場初値

1,200円

上場初値
投資倍率

1.2倍

当社運用組合持分は2014年3月末現在、株式を保有しており、2014年3月末時点の株価は661円です。

2014年5月、当社運用組合持分を1株当たり950円
(公募価格と同額)で株式会社ニチイ学館に売却

2.12. 上場企業紹介(2)

株式会社アドメテック

地域ファンド投資企業

- 上場日 : 2013年9月4日
上場市場 : TOKYO PRO Market
本社所在地 : 愛媛県松山市
事業概要 : 癌及び腫瘍等の治療・診断技術の開発及び製造販売等

株式会社ありがとうサービスに続き、
えひめベンチャーファンドから累計5社目の新規上場

投資時点
株価

205円

上場初値

155円

上場初値
投資倍率

0.8倍

当社運用組合持分は2014年3月末現在、株式を保有しており、2014年3月末時点の株価は155円です。

2.13. 上場企業紹介(3)

株式会社ダイキアクシス

地域ファンド投資企業

上場日 : 2013年12月19日

上場市場 : 東証二部

本社所在地 : 愛媛県松山市

事業概要 : 浄化槽をはじめとする各種水処理設備の製造・施工・販売及び維持管理及び住宅関連商材の販売等

株式会社アドメテックに続き、
えひめベンチャーファンドから累計6社目の新規上場

投資時点
株価

2,500円

上場初値

1,351円

上場初値
投資倍率

0.5倍

当社運用組合持分は2014年3月末現在、株式を保有しており、2014年3月末時点の株価は1,300円です。

収益改善に向けた取り組み

3.1 収益改善に向けた取り組み

1 . ベンチャーキャピタル事業の更なる強化 企業間連携システム

インキュベーション事業の拡大

ファンド増額・新設

2 . 新たな収益源の獲得

新規事業による収益源の多様化

ファンド企画、管理受託

3.2 ベンチャーキャピタル事業の更なる強化

企業間連携システム

株式会社カネカとの連携により得た知見を元に、企業間連携システムを開発
事業会社のニーズとベンチャー企業のシーズを効果的に結びつけ
新規事業を創出するプラットフォームに
事業会社によるCVC(コーポレートベンチャーキャピタル)運営サポートもにらむ

インキュベーション事業の拡大

share KARASUMAに続き2013年3月にshare YODOYABASHI deckを新設
ソーシャルオフィス”プログレッシブ松山”の開設支援

愛媛県松山市に2013年12月オープン、2014年4月より当社愛媛事務所が入居

ファンド増額・新設

2013年6月 もりおか起業ファンドを50百万円から100百万円に増額

投資の出口として上場を前提としない起業支援ファンド

従来型ベンチャーファンドの投資対象の裾野を拡大

2013年8月 えひめベンチャーファンド2013を総額500百万円で新設

投資先11社中6社が上場したえひめベンチャーファンド2004の後継ファンド

3.3 新たな収益源の獲得

新規事業による収益源の多様化

インキュベーション事業は黒字化、パートナー次第で横展開も推進

自治体向けコンサルティング事業は継続的に案件を受託

2014年3月期は福島県から緊急雇用創出事業を受託し、17百万円を売上計上

ファンド運営企画、管理受託

2012年に設立した**起業ファンド**の横展開の他、事業会社におけるR&Dの外製化を狙う**CVC**(コーポレートベンチャーキャピタル)等、**従来のベンチャーファンドとは異なるコンセプトを設定したファンド設立の企画**提案を実施

他社運営ファンドの**管理受託は5百万円/年を売上計上**する体制に

3.4 ファンド営業体制

2014年5月1日付組織変更

ファンド組成を最優先課題として取り組むべく、
新規事業の収益化を推進してきた新規事業開発部を事業推進部に改組

代表取締役社長の今庄 啓二が事業推進部長に就任し、
ファンド営業体制を直接統括

CVCファンド

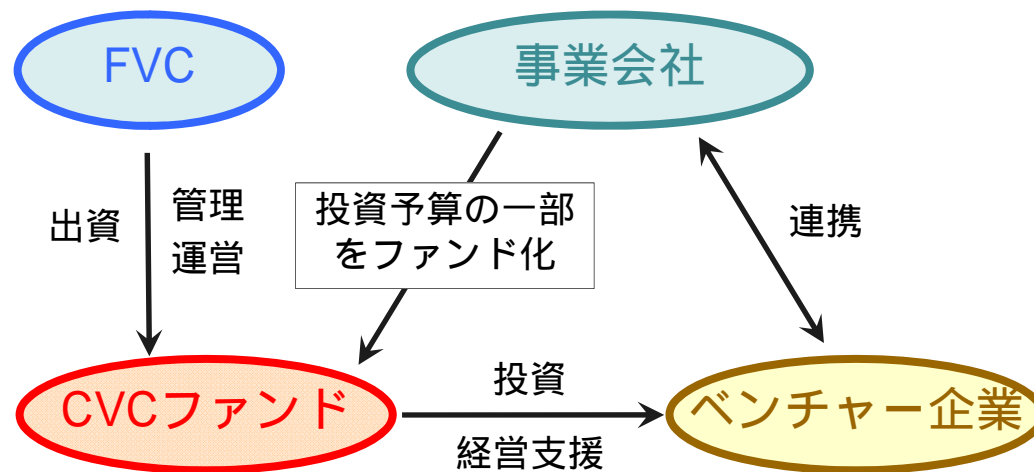
2014年6月1日 投資事業有限責任組合ブリッジベンチャーファンド2014を設立

地域に根差したベンチャー企業ネットワークに対する評価を受け、
事業会社から300百万円規模のCVCファンド運用を受託

3.5 CVCとは

金銭的リターン以上に**事業シナジー**を重視し、
事業会社が行うベンチャー投資

中でも**ファンドの管理運営**を
外部のVCである**FVC**が担う方式を推進



3.6 CVC受託に向けたFVCの強み

■ 地方に強い独立系・上場ベンチャーキャピタル

京都を本拠地とし、北は青森から西は愛媛まで、
各地方の地方ファンドを運用するベンチャーキャピタル

■ ものづくり企業への活発的な投資活動

IT系の企業に限らず、日本特有の技術力を有する
各地方の中小・ベンチャー企業をメインに投資活動を実施

【参考】 会社概要

- 会社名 : フューチャーベンチャーキャピタル株式会社 (FVC)
- 設立年月日 : 1998年9月11日
- 資本金 : 2,051百万円
- 発行済株式総数 : 6,153,400株 (2013年10月1日付で100分割)
- 株式上場市場 : JASDAQ市場 (8462)
- 所在地 : 京都府京都市中京区烏丸通錦小路上ル手洗水町659番地 烏丸中央ビル
- 従業員数 : 23名
- 事業内容 : 未上場企業投資業務、投資事業組合の企画・運営
コンサルティング業務など